白馬童子

糸魚川市立糸魚川小学校

学校だより　第 11 号

令和７年３月 21 日

TEL:025-552-0042　FAX:025-552-1304　E-mail:itosyo@itoigawa.ed.jp

(ＨＰ)https://www.itoigawa.ed.jp/itosyo/(携帯)http://itoigawa.ed.jp/itosyo/otayori/i/

感動の共有　学ぶことは豊かに変わること

校長　冨永　浩文

２月の移行学級。ひすいの里の垣根に咲くサザンカの赤が、厳しい寒さに耐え、美しく雪の白に映えていました。新１年生の保護者の皆さんを前に、詩人「相田みつを」氏の言葉を借り、お話をしました。

「子どものためにやらなくてはならないことは、たくさんあるけれど、その中でも一番大切だと思っていることは、子どもが小さいうちに、心の中に、美しいものを見て、素直に感動する心を養っていくこと。これが、親の大事な努めなんだよ。」「まず、親が感動しなくては駄目だよ。親の感動は必ず子どもの心に伝わっていって、感動する心が芽生えるのだから。」と。

風景を眺めたり、絵画や音楽を鑑賞したり、おいしいものを食べたりして、子どもたちと一緒に感動することは、とても大切です。子どもに豊かな感受性が育まれ、愛着心も深まります。同じものを見たり、聴いたり、味わったりしても、お互いに（スマホなど）別々のことをしていては、感動は共有できません。子どもと一緒に、「きれいだね。」「素敵だね。」「美味しいね。」など、手を握ったり、見つめ合ったり、うっとりしたりして共感することが大切なのだと思います。

学校でも同じです。机に向かって学ぶことだけでなく、色々な「人、もの、こと」と関わる体験をすることで、優れた感性が育まれます。感動する場面、そして、それを表出し、共有する場面があることで、子どもたちは自らの感性をとおして、豊かに変わることができるのだと思います。

５年生は今年のわかば活動で、翠明苑に繰り返し訪問させていただきました。感染症の関係で、当初の予定を削減しなければなりませんでしたが、それでも約１０回通って、入居の皆さんと交流しました。回数を重ね、試行錯誤しながら、垣根を低くし、心を通い合わせていきました。交流する中で、様々な感動の共有があり、子どもたちの感性は豊かになり、考え方も変わっていきました。入居されている皆さんが、過去のつらく、悲しい経験を背負いながらも、今の平和な生活を喜び、穏やかな態度と温かな笑顔で、子どもたちに安心感や勇気、希望を与えてくださったおかげです。

活動後、一人の女の子が、こんな言葉を書き記しています。（一部省略しています）

「最初は、悲しくて、残酷な話ばかりでした。（みなさんの姿から）そんな思い出があっても、笑顔でいた方がいいんだなって思いました。過去は取り戻せない、けれど、未来は変えられることに気づきました。（希望をもって）未来を考えていれば、いつか未来はよくなると思います。私はそのために、できるだけみんなに笑顔を届けたいと思います。泣いている人、怒っている人、いやなことがあった人も、元気で笑顔になれます。笑顔は大切だと思いました。」

学ぶことで心動かされ豊かに変わっている姿が、そこにありました。私も、あたかもそこにいたかのように、交流する５年生の姿を思い浮かべ、頼もしく、心強く感じました。

７日、６年生を送る会の締めくくりは、５年生を中心にした在校生による合唱。「サザンカ」という題名の曲でした。**「誰よりも転んで　誰よりも泣いて　誰よりも君は　立ち上がってきた･･･」**美しいメロディーと歌詞に胸が詰まりました。歌う在校生、聴く卒業生、感動を共有しました。窓から差し込む光が、やさしく皆を包んでいました。令和６年度が終了します。１年間有り難うございました。